

ホームID	ホーム名	法人名	評価日
2683	伊豆高原(ゆうゆうの里)	一般財団法人 日本老人福祉財団	H29.2.7
評価機関	特定非営利活動法人あい・ライフサポートシステムズ		H29.2.7

評価結果

スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	A	A	2.3.4	A	A	6.2.1	A	A
1.1.2	A	A	2.3.5	A	A	6.2.2	A	A
1.1.3	A	A	2.3.6	A	A	6.2.3	A	A
1.1.4	A	A	2.3.7	A	A	6.2.4	非該当	非該当
1.2.1	A	A	2.3.8	A	A	6.2.5	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.6	A	A
1.2.3	A	A	2.3.10	A	A	6.2.7	A	A
1.3.1	A	A	2.3.11	A	A	6.2.8	A	A
1.3.2	A	A	2.4.1	A	A	6.2.9	B	B
1.3.3	A	A	2.4.2	A	A	6.3.1	A	A
1.4.1	A	A	2.4.3	A	A	6.3.2	A	A
1.4.2	A	A	2.4.4	A	A	6.3.3	A	A
1.4.3	A	A	2.4.5	A	A	7.1.1	A	A
1.4.4	A	A	2.4.6	A	A	7.1.2	A	A
1.4.5	A	A	3.1.1	A	A	7.2.1	A	A
1.4.6	A	A	3.1.2	A	A	7.3.1	A	A
1.4.7	A	A	3.1.3	A	A	7.3.2	A	A
1.4.8	A	A	3.1.4	A	A	7.3.3	A	A
1.5.1	A	A	3.1.5	非該当	非該当	7.3.4	A	A
1.5.2	A	A	3.1.6	A	A	7.4.1	A	A
1.5.3	A	A	3.1.7	A	A	7.4.2	A	A
2.1.1	A	A	4.1.1	A	A	7.4.3	A	A
2.1.2	A	A	4.1.2	A	A	7.4.4	A	A
2.2.1	A	A	4.1.3	A	A	7.4.5	A	A
2.2.2	A	A	4.1.4	A	A	7.5.1	A	A
2.2.3	B	B	4.2.1	A	A	7.5.2	A	A
2.2.4	A	A	4.2.2	A	A	7.5.3	A	A
2.2.5	A	A	5.1.1	A	A	7.5.4	A	A
2.2.6	A	A	5.1.2	A	A	7.5.5	A	A
2.2.7	A	A	5.2.1	A	A	7.5.6	A	A
2.2.8	A	A	5.2.2	A	A	7.5.7	A	A
2.2.9	A	A	5.2.3	A	A	7.6.1	A	A
2.2.10	A	A	5.2.4	A	A	7.6.2	A	A
2.2.11	A	A	5.2.5	A	A	7.6.3	A	A
2.3.1	A	A	6.1.1	A	A			
2.3.2	A	A	6.1.2	A	A			
2.3.3	A	A	6.1.3	A	A			

【評価機関の所見】

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール	所 見
2-3-3	<p>10以上の委員会を設け、あらゆる面でのサービスの質を向上させるという認識のもと、全ての委員会が他職種で構成され、毎月の活動を行い、情報の共有を行っています。各委員会やケアカンファレンスには可能な限り施設長も参加し、問題点や改善点、検討課題などの現状を把握し、TOPマネジメントにより、よりスピーディーな対応を行うよう努めています。また、事故やヒヤリハットに繋がる前段階で、職員が気付いた改善箇所や改善方法を「里内危険個所アンケート」として募り、入居者にとって、より安全に、より快適に、より便利になるよう改善を繰り返しています。この危険個所アンケートは、建物の老朽化による危険個所等の指摘だけでなく、共有場所での置物の配置や、飾りつけに至るまで、具体的なものになっており、これらの提案事項を、即対応できるもの、時間がかかるもの、対応できない事などに分類し、職員間で共有するととどまらず、入居者への情報提供を行い、注意喚起をするとともに、入居者からの意見を募る事にもつながっています。</p>
2-4-2	<p>生活サービスやケアサービスについての各種マニュアルを整備し、全てのマニュアルを毎年見直す事としています。事故や重大事故に繋がると想定されるヒヤリハットがあった際は、マニュアルを検証し、必要に応じての見直しも行い、正式な改訂版が作成されるまでは手書きで修正するなど、より現場の実態に即した取り組みとなっています。各マニュアルには担当職員が決められており、毎年4月1日付けで改定を行う事としています。マニュアルの検証の結果、特に見直しの必要がなかった場合でも、見直しの検証を行った証として、マニュアルの日付のみを改定し、ファイリングしています。</p>
2-4-4	<p>院内感染対策委員会を設け、考え得る感染症に対する予防及び対処をマニュアル化しています。また対処方法に関しては、文章による説明だけでなく、手順をフローチャート化し、研修を通じて職員への周知をしています。具体的には、【ノロウイルス】【0-157】【ヒスタミン食中毒】【インフルエンザ】【結核】【MRSA】【带状疱疹】【疥癬】【ウイルス性肝炎】など。この感染症対策等の研修は協力医療機関の支援もあり、嘔吐物処理の模擬訓練を行うなど、実態に即したものになっています。</p>
4-2-1	<p>接遇委員会を設置し、広く接遇に関する改善や評価を行っています。また、職員の中に2名の接遇トレーナーを配置し、このトレーナーが新人に対しての研修を実施した上で、日頃の入居者との関わりや声かけ、居室訪問などの実践の中で、①修得状況の確認表を用いて3ヶ月間のモニタリングと評価を行い、②接遇マナーの達成状況チェック表により、自己チェックとトレーナーからの評価とコメントをもらい、③今後の取り組みと半年後の具体的な達成目標、を掲げ接遇力の向上に努めています。職員のコミュニケーション能力や接遇力の向上に関する取り組みは、法人本部としても力を入れており、新人・2年目・3年目など、職歴に合わせての研修に加え、上記のような現場での取り組みが実施されている事で、一人ひとりの職員が来里者への丁寧な対応となって表れているという事が確認できました。</p>